

## 日韓姉妹の連帯を



北見西 石川 巖

昨年十月号本欄に「日韓親善委員会その後」と題して藤浜北RCの紐谷実氏の報告が載っております。第一回の日韓親善会議が七月二十四日のようでしたから、具体的な活動はこれからと思われまので、私の考えを申し添え、今後の活動に是非生かして頂けたらと思います。

私たち北見西RCは昭和五十四年四月一九日大韓民国の慶尚南道にある晋州RCと姉妹クラブとなり、ささやかながら毎年お互いに行き来して友好を深めております。私のクラブでは、

北見地区日韓友好親善協会のお骨折りで在札幌韓国領事館のご意向を伺った上、より良きご指導のもとに現在があります。

ここで考えるのですが、日韓友好親善協会は民間サイドでお互いの文化・芸術・経済を働きかける団体であり、かたやロータリーは世界に跨る組織で民間外交をいかなるサイドからも受け入れる立場にあるということです。PGの頭脳集団であれば、わが国二十四地区の中から現在姉妹クラブにある人たちをまとめることはできないことではないと思います。日本全国の韓国と姉妹クラブにあるRCの動きがわかるようになれば、とても強い力となり、考えただけでも希望が湧き立って参ります。大変ではあります。是非ご尽力頂けたらと思います。

第五回日韓親善中央会の総会も、昨年六月二十日帝国ホテルで開催され、全潤煥国会議員を中心に若手議員二十数名に上る出席をみ、わが国からも中曾根臨時首相代理を中心に数名の閣僚が出席し、今後の日韓関係はいやが上にも民間外交を主軸としたお付き合いが待たれるときになりました。

欧米に偏しがちだった日本のロータリーも、アジアに目を向けるべき時が到来したと思えます。是非ロータリーの輪を強力に廻しましょう。日韓親善委員会の今後に期待するところ、大きなものがあります。(第二五〇地区・北海道・病院)